

いのちあふれる美しい地球を次代へ 第27回 環境活動助成先を決定しました

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、2017年6月から8月にかけて第27回環境活動助成先の公募を行い、応募総数143団体の中から102団体へ合計9,500万円の助成を行うことを決定しました。

当財団は1990年の設立より27年間、「生物多様性の保全と持続可能な利用」を目的に、環境保全のためのフィールドワークを世界各地で行っている団体への助成事業を行っています。今回は、「植樹」「森林整備」「砂漠化防止」「里地・里山・里海の保全」「湖沼・河川の浄化」「野生生物の保護」「絶滅危惧生物の保護」の7つの分野において募集を行いました。助成団体の取り組みのなかでは、「里地・里山・里海の保全」分野における「里海」に関する活動が増加しています。

今回の助成により、これまで27年間の助成累計は2,846団体、助成総額は約26億円となります。

当財団は、かけがえのない生物多様性を守り、豊かな自然環境を次代へ引き継いでいくため今後もさまざまな環境保全活動に取り組んでまいります。

記

【第27回 環境活動助成 概要】

テーマ： 生物多様性の保全と持続可能な利用のために

助成金額： 9,500万円

助成期間： 2018年4月1日～2019年3月31日

助成先： 102団体

活動分野	団体名（活動地域）
植樹	<ul style="list-style-type: none"> ・（公社）秋田県林業育成協会（中国） ・ NPO法人 日中友好千葉県緑化協力委員会（中国） ・ NPO法人 ビラーンの医療と自立を支える会（フィリピン） ・ NPO法人 イカオ・アコ（フィリピン） ・ コーディリエラ・グリーン・ネットワーク（フィリピン） ・ NPO法人 緑の大地の会（マレーシア） ・ NPO法人 パルシック（マレーシア） ・ NPO法人 モンゴル環境情報センター（モンゴル） ・ NPO法人 緑のサヘル（ブルキナファソ） ・ NPO法人 アジア母子福祉協会（マダガスカル） ・ NPO法人 白神山地を守る会（青森県） ・ NPO法人 白神ネイチャー協会（秋田県）
（続く）	<ul style="list-style-type: none"> ・（公財）鎮守の森のプロジェクト（福島県）

植樹 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人 地球の緑を育てる会(茨城県) ・ NPO法人 森びとプロジェクト委員会(栃木県・岩手県・福島県) ・ NPO法人 秩父百年の森(埼玉県) ・ 秩父育樹会(埼玉県) ・ NPO法人 森のライフスタイル研究所(千葉県) ・ NPO法人 国際ふるさとの森づくり協会(東京都) ・ NPO法人 戸隠森林植物園ボランティアの会(長野県) ・ New 福岡グリーンヘルパーの会(福岡県) ・ NPO法人 霧島ふるさと命の森をつくる会(鹿児島県)
森林整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ (一社)あきた地球環境会議(秋田県) ・ 青年海外協力隊茨城県OV会(茨城県) ・ 横浜自然観察の森友の会(神奈川県) ・ 猿倉緑の森の会(新潟県) ・ NPO法人 ぎふし森守クラブ(岐阜県) ・ NPO法人 森林の風(三重県) ・ 行常しあわせの森づくり協議会(兵庫県) ・ (一社)ブナを植える会(兵庫県) ・ 芸北自然保護レンジャー(広島県) ・ (公財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター(鹿児島県・宮崎県・大分県・福島県・宮城県・岩手県)
砂漠化防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ (一社)地球緑化クラブ(中国) ・ NPO法人 エコアライアンス21(モンゴル)
里地・里山・里海の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人 草の根国際協力研修プログラム(タイ) ・ NPO法人 中央アジア森林草地保全研究所(タジキスタン) ・ (公社)日本環境教育フォーラム(バングラデシュ) ・ NPO法人 サヘルの森(マリ) ・ 伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会(宮城県) ・ NPO法人 麗潤館(茨城県) ・ 森林塾青水(群馬県) ・ NPO法人 しろい環境塾(千葉県) ・ NPO法人 草炭緑化協会(千葉県) ・ NPO成田さくらの里(千葉県) ・ NPO法人 アースデイ・エブリデイ(東京都) ・ 飛森谷戸の自然を守る会(神奈川県) ・ NPO法人 海の森・山の森事務局(神奈川県) ・ NPO法人 グリーン成長 桜(神奈川県) ・ 玉縄城址まちづくり会議(神奈川県) ・ NPO法人 山崎・谷戸の会(神奈川県) ・ NPO法人 自然とオオムラサキに親しむ会(山梨県) ・ 海洋環境防災調査研究会(石川県) ・ 群馬ナチュラルリスト自然保護協議会(群馬県) ・ NPO法人 ラブ・ネイチャーズ(静岡県) ・ NPO法人 グラウンドワーク三島(静岡県) ・ NPO法人 遊休農地活性化プロジェクト(愛知県) ・ 「あいちの海」グリーンマップ(愛知県) ・ 巨木と水源の郷をまもる会(滋賀県) ・ 楽農クラブ(大阪府)
(続く)	

<p>里地・里山・里海の保全 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人 泉南の里山を大切にする会(大阪府) ・ NPO法人 森林ボランティア竹取物語の会(大阪府) ・ NPO法人 豊かな森川海を育てる会(兵庫県) ・ よこおみち森もりの会(兵庫県) ・ 東お多福山草原保全・再生研究会(兵庫県) ・ 高砂海浜公園海辺の保全集いの会(兵庫県) ・ NPO法人 うだ夢創の里(奈良県) ・ グラウンドワーク大山蒜山(鳥取県) ・ NPO法人 アーキペラゴ(香川県) ・ 豊島棚田くらぶ(香川県) ・ ハンセン病問題を考える市民の会(香川県) ・ 和白干潟を守る会(福岡県) ・ 国見縄文の森実行委員会(佐賀県) ・ NPO法人 長崎海洋環境研究会(長崎県)
<p>湖沼・河川の浄化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学国際保健ボランティア(バングラデシュ・インドネシア・日本) ・ NPO法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議(福島県) ・ 鯨城・堀川と生活を考える会(愛知県) ・ NPO法人 飯梨川再生ネット(島根県)
<p>野生生物の保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人 サラマンドフの会(ケニア) ・ NPO法人 アフリカゾウの涙(ケニア・日本) ・ 大雪山マルハナバチ市民ネットワーク(北海道) ・ 岩手山麓自然学校(岩手県) ・ NPO法人 環境改善協会(福島県) ・ 坂月川愛好会(千葉県) ・ 日の出ネイチャークラブ(東京都) ・ (一社)アニマルパスウェイと野生生物の会(山梨県・栃木県) ・ NPO法人 ピッキオ(長野県) ・ ゆうすいの会(岐阜県) ・ NPO法人 野鳥の病院(大阪府) ・ 晴れの国野生生物研究会(岡山県) ・ NPO法人 日本ツキノワグマ研究所(秋田県・福島県・長野県) ・ NPO法人 ふくおか湿地保全研究会(福岡県) ・ 奄美海洋生物研究会(鹿児島県)
<p>絶滅危惧生物の保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ タンチョウ保護研究グループ(中国) ・ ボランティア サザンクロス ジャパン協会(マダガスカル) ・ (公財)日本鳥類保護連盟(リトアニア) ・ 波崎愛鳥会(茨城県) ・ 千葉県野生生物研究会(千葉県) ・ NPO法人 サンクチュアリエヌピーオー(静岡県) ・ 愛知守山自然の会(愛知県) ・ 日本ワシタカ研究センター(滋賀県) ・ 里山の山野草を守る会(奈良県) ・ NPO法人 日本ウミガメ協議会(沖縄県)

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立。以来、環境活動に取り組む団体への助成・支援、世界各地における植樹活動、生物多様性の保全などに貢献した団体・個人への顕彰、環境人材育成のための環境教育を主な事業として、さまざまな環境・社会貢献活動に継続し取り組んでいます。

《公益財団法人イオン環境財団ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/>》

■助成

第26回環境活動助成は97団体へ9,797万円を助成しました。

【環境活動助成先団体の活動の一例】



ニンティアオの植栽

団体名：一般社団法人地球緑化クラブ 活動地：中国



チェーンソー実習

団体名：里山の山野草を守る会 活動地：奈良県

■植樹活動

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることをなど目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2017年度は、国内では北海道厚真町、福島県いわき市、宮城県亘理町、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県糸満市平和祈念公園にて、海外ではカンボジア・プノンペン、ミャンマー・ヤンゴン、ベトナム・ハノイにおいて植樹活動を実施しました。



第5回 ミャンマー・ヤンゴン植樹



福島県いわき市植樹

■顕彰 生物多様性アワード

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2016年度は第4回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施し、2017年度は、第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」を実施しました。



第5回「生物多様性日本アワード」授賞式
(国連大学)

■環境教育

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）の8ヶ国、合計64名の学生が参加し、8月1日～6日の期間、日本で開催しました。



第6回ASEP開講式
(早稲田大学大隈講堂)

2017年10月13日（金）には、王立プノンペン大学（カンボジア）にて、国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とした「生物多様性を越えて2017」を開催しました。



第2回生物多様性を越えて
(カンボジア王立プノンペン大学)

再生可能エネルギー活用分野では、啓発・普及、および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は昨年に引き続き、中国武漢市の小中学校5校を対象に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈
(中国・武漢)